

# SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

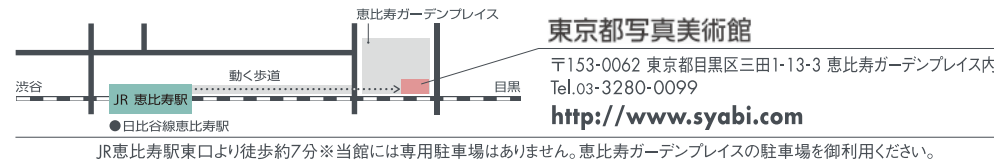
| 2009 | 3階展示室   | 2階展示室   | 地下1階展示室   | 1階ホール  |
|------|---|---|---|--|
| 8    | <br>荒木経惟「センチメンタルな旅」1971年<br>コレクション展「旅」<br>第2部 異郷へ<br>写真家たちのセンチメンタルジャーニー<br>7月18日(土)～9月23日(水・祝) | <br>《U.S.S.R.1991》1991年<br>北島敬三<br>1975-1991<br>8月29日(土)～10月18日(日) | <br>心の眼 稲越功一の写真<br>8月20日(木)～10月12日(月・祝) | <br>©2009 「ぼくはうみがみたくいきました」製作実行委員会<br>ぼくはうみがみたくいきました<br>8月22日(土)～              |
| 9    |   |   |   |  |
| 10   | <br>コレクション展「旅」<br>第3部 異邦へ<br>日本の写真家たちが見つけた異国世界<br>9月29日(火)～11月23日(月・祝)                         | <br>セバスチャン・サルガド AFRICA<br>～生きとし生けるものの未来へ～<br>10月24日(土)～12月13日(日)   | 第20回日本写真作家協会展<br>第7回IPA公募展<br>10月17日(土)～11月1日(日)  | <br>© Pineforest Producer & Co<br>utsuroi 写真家18人からのメッセージ<br>9月19日(土)～10月2日(金) |
| 11   |   |   | 写真新世紀東京展2009<br>11月7日(土)～11月29日(日)  | <br>© オフィスフォープロダクション<br>BASURA バスーラ<br>10月3日(土)～10月16日(金)                     |
| 12   | <br>木村伊兵衛と<br>アンリ・カルティエ＝ブレッソン<br>11月28日(土)～2月7日(日)  | <br>日本の新進作家vol.8<br>「出発-6人のアーティストによる旅」<br>12月19日(土)～2月7日(日)       | 第10回上野彦馬賞展<br>12月5日(土)～12月13日(日)  | 電信柱エレミの恋<br>10月31日(土)～   |
| 2010 |   |   | 映像をめぐる冒険vol.2<br>アニメーション<br>欲動する身体(仮称)<br>12月22日(火)～2月7日(日)   |  |
| 1    | 第2回恵比寿映像祭 2月19日(金)～2月28日(日)   |   |   |  |
| 2    |   |   |   |  |
| 3    | 森村泰昌展 なにものかへのレイクエム(仮称)<br>3月11日(木)～5月9日(日)  |   | APAアワード2010<br>3月6日(土)～3月21日(日)   | ※スケジュール・展覧会タイトル等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。   |

## ご利用案内

- 休館日：毎週月曜日、年末年始(12/28～1/1)  
※月曜日が祝日または振替休日の場合、その翌日。ただし9/21～9/27は無休
- 開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで)入館は閉館の30分前まで

## 割引チケットの販売

お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。

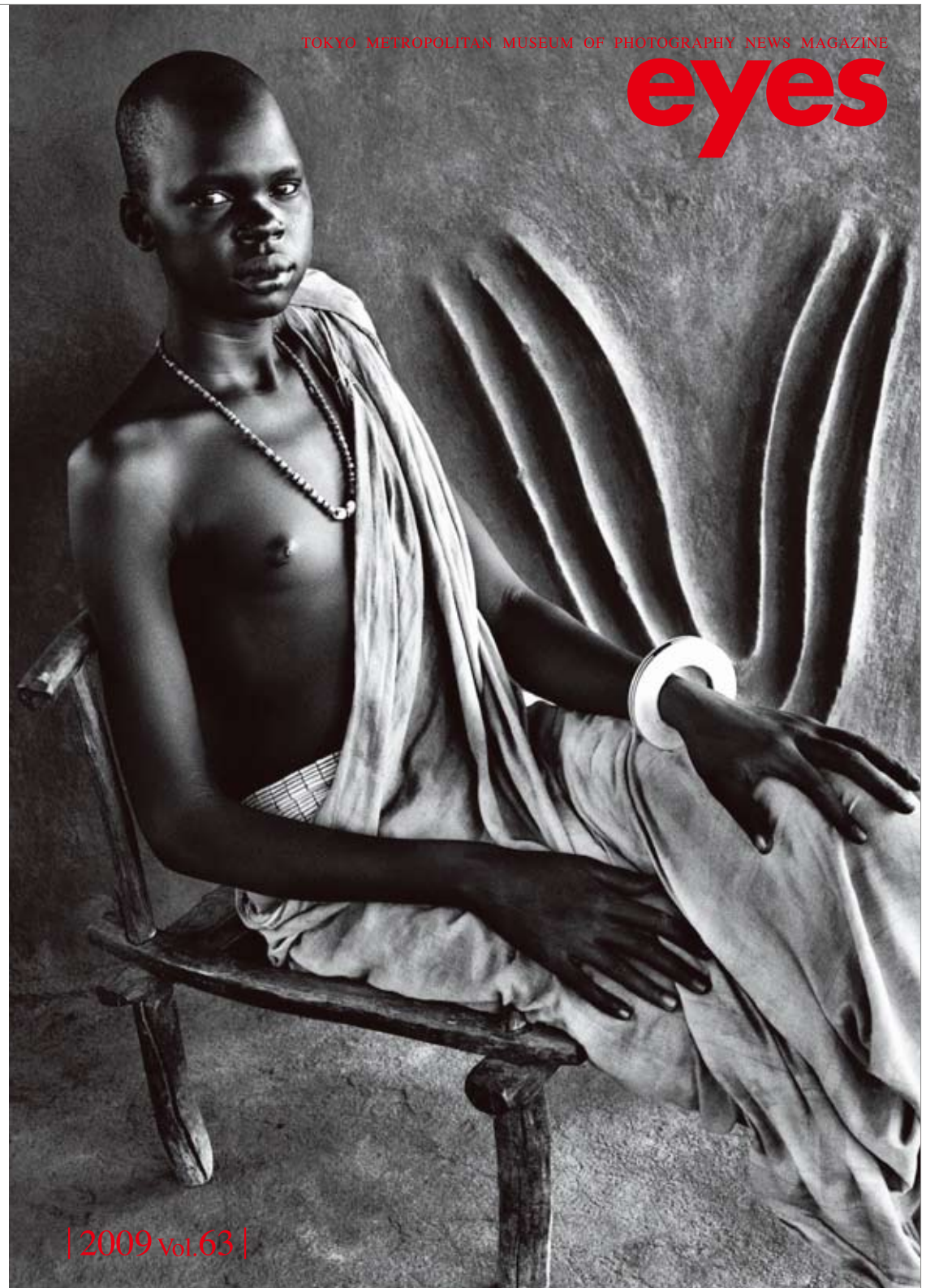


※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。

東京都写真美術館ニュース「アイズ09」63号 ●発行日：2009年8月28日 / 企画・編集：東京都写真美術館事業企画課 普及係  
●印刷・製本：光写真印刷株式会社 ●発行：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2009 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE

# eyes



2009 vol.63



マタ茶園で働く子供、ルワンダ、1991年

Topics

# セバスチャン・サルガド AFRICA

～生きとし生けるものの未来へ～

世界40か国余を取材し、壮大なフォト・エッセイを発表し続けるセバスチャン・サルガド。展覧会担当学芸員がバリのサルガド氏を訪ね、写真を始めた頃から現在に至るまでの活動についてお話をうかがいました。

「今回の展覧会では、サルガドさんが30年以上撮り続けてこられたアフリカの写真をまとめて紹介する機会となりますが、どのようなメッセージが込められているのですか。

アフリカは「最も美しい大陸」と呼ばれています。言語や風習が異なる民族が暮らしていますが、元来、友好的な種族が多く、豊かな文化を育む大陸でした。しかし、植民地時代

セバスチャン・サルガド  
Sebastião SALGADO

1944年、ブラジル生まれ、バリ在住。ブラジル（セラ・ペラダ金鉱）等、徹底した取材に裏打ちされた説得力ある写真が認められ、80年代よりユージン・スミス賞、世界報道写真賞など受賞多数。



から現代を経てその様相は激変したのです。ヨーロッパからの入植者が土地や作物を搾取し、社会の仕組みも統治しやすいように手を入れてしまいました。そして国際的非難が集中すると、何も残さず引き上げ、結果、アフリカの多くの地域が現在に至るまで、民族や政治的問題を山積みしたまま、助けを求めています。そして今また、アフリカの資源獲得を目論んだ各国間で、新たな利権を巡る抗争が生まれているのです。

アフリカの歴史と豊かな資源と雄大な自然には、人類の未来へのヒントがたくさん隠されています。偏った政治的視点や観光対象としてだけではなく、アフリカの現在を冷静に見て、国際関係の可能性や豊かな文化的要素を思い返して欲しいのです。

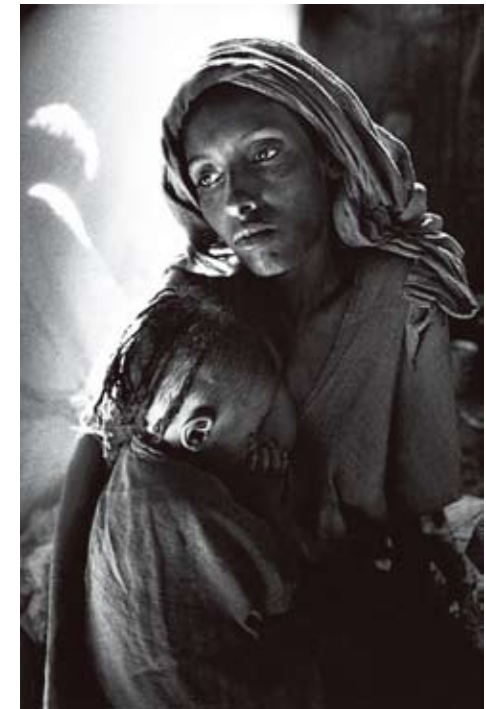
「サルガドさんが度々訪れているルワンダの歴史が「アフリカ」展を象徴しているように思います。ルワンダでの体験についてお話しいただけますか。

そうですね、ルワンダとは非常に深い縁があります。そしてアフリカについて考える上でも忘れてはならない土地です。ルワンダを初めて訪れた時、私は写真家ではありませんでした。当時、エコノミストとしてルワンダの農業発展を構想するプロジェクトに参加していて、1971年に茶畑を視察したのです。その後、数年経って写真家になりました。

そして再びルワンダを訪れたのは、1991年「WORKERS」の取材時でした。その時の作品は今回も展示していますが、光り輝く美しい茶畑のなかで、みな生き生きと働いていました。しかし次の取材で私は、変わり果てたルワンダの姿を目の当たりにしました。1994年、フツ族とツチ族間で大量虐殺（ジェノサイド）が起き、美しかった茶畑は全て焼き払われ、3ヵ月余で80～100万人が命を奪い合っていたのです。これまでに数え切れないほどの現場に足を運びましたが、この時のルワンダは人間の為せる業とは思えぬ、凄惨を極めた状況でした。

その後も私は様々な土地で歴史に刻まれる人間の生き方を見てきました。そして、新しいプロジェクト「GENESIS」をスタートさせ、2005年に元茶畑があった地域に近い国立ゴリラ保護地域を訪れたのです。人間の歴史が転換していく一方で、何千年も前から変わることのない豊かな自然の中で動物たちが生きている土地です。

私はこのように30年余の間に4回ルワンダを訪れていますが、これだけ状況が激変した場所も、異なる次元でアプローチした土地も他にありません。皆さんは、私の経



コロン難民キャンプで暮らす授乳中の母親のために「セーブ・ザ・チルドレン基金」が運営する栄養センター、エチオピア、1984年

験を作品を通して繰り返し見ることができます。これらのルワンダのルポルターージュから、アフリカでかつて起きていたこと、今も変わらず起きていること、ひいては世界各地で類似したことが起き続けていることを思い返してみてください。



アンゴラ解放人民運動(MPLA)を支援するデモ集会で、アンゴラ、ルアンダ、1975年



円形や放物線状の模様が描かれるソスフレイ地域の砂丘、ナミビア、2005年



カオコランド地方マリエンフルスのカタバティ川近くに暮らす遊牧民ヒンバ族のグループ、ナミビア、2005年



ヴィルンガ国立公園ビンケ火山のクレーター湖。手前の植物はジャイアントセネシオ、ルワンダとコンゴ民主共和国の国境地域、2004年

ー現在、進行中の新しいプロジェクト「GENESIS」について教えてください。「GENESIS(起源)」は準備期間4年を経て、2004年から始めた地球環境と人間社会の関係を再考するプロジェクトです。海や山、砂漠といった自然の写真を撮り始めたので、全く新しい作品を作り始めたと思った方もいらっしゃるかもしれませんが、私の中ではこれまでの全ての仕事と繋がっています。人類が切り拓いてきた土地、そこで行われた政治と歴史、戦争や紛争、医療問題などを根源的に振り返っていくと、そこには人類の営みが始まるずっと以前から存在し続ける命、自然があるのです。生きとし生けるもの全てのルーツを辿り、関係性を再考するために、私は前人未踏の地に行きたくて手つかずの自然や動物と対峙すると共に、原始的な社会を営む人々取材しています。「GENESIS」プロジェクトでは、「WORKERS」や「EXODUS」シリーズで行ってきた展覧会やレクチャー、出版に加え、幅広い活動を行います。



ディンカ族のアマク放牧キャンプの夕暮れ。群れが戻ってくるこの時間が一日の中で最も活気がある、南部スーダン、2006年

故郷ブラジルで数年前から植林を始め、すでに1,500エーカーの森を再生しました。また、次世代の育成のために写真作品を用いた小学校向け教育プログラムも実施します。これらの活動の拠点となるNGO「テラ・インステイトウト」も設立しました。今後は欧米や中国など、世界各国で「GENESIS」プロジェクトを実施することを計画しています。

ープロジェクト完成まで、とてもお忙しい日々ですね。今後の予定を教えてください。

先日アマゾンから帰ってきたばかりですが、今週末バリを出て、アラスカへ撮影に行きます。交通手段もない大自然の中へ飛び込んでいくので、スタッフ全員分の食糧も持っていきます。移動だけでも大仕事ですが、「GENESIS」プロジェクトはほとんどこのようなスタイルで撮影しています。8月にはアマゾン、年末は南グルジア、来年はアジア、マダガスカル、アメリカ、ニュージーランド...、もう随分先までスケジュールが決まっています。よくどうやって撮影する土地を選ぶのか聞かれますが、人にはそれぞれ「自分が行くべき場所」というものがあると思っています。どこへ向かうのか決めれば、自ずと次に行くべき土地が見つかり、またその次へと繋がっていくのです。そして2012年には全ての撮影を終え、「GENESIS」プロジェクトを次の段階へ進め、再び世界各国を廻って行く予定です。

[2009年5月 インタビュー・構成:丹羽晴美]

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

10月24日(土) → 12月13日(日)

## セバスチャン・サルガド AFRICA

～生きとし生けるものの未来へ～

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催: 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/朝日新聞社  
□助成: 芸術文化振興基金/財団法人 ボーラ美術振興財団 □協賛: 凸版印刷株式会社/社団法人 日本写真文化協会  
□後援: 駐日ブラジル大使館/在日フランス大使館 □協力: エールフランス航空/学校法人 日本写真芸術専門学校/PRONTO 他



ティグライ州西部のカレマキャンプに到着したばかりの難民たち。エチオピア空軍のミグ戦闘機からの機関銃攻撃を避けるために、夜通し歩いてきた、エチオピア、1985年

フォトドキュメンタリーの先駆者であり、今もなお精力的に新作を発表し続けているセバスチャン・サルガド。本展は、かつて経済学を専門としていたサルガドの視点を通じて、「見捨てられた大陸」と呼ばれるアフリカの現状に迫るものです。サルガドは初めてアフリカを取材した1970年代から今日に至るまで、世界各国を訪れ、アフリカの飢餓や砂漠化を救うキャンペーンに取り組み、さまざまな計画を実行してきました。それにもかかわらず、状況は一進一退を繰り返しています。度重なる紛争で、さらに悪化する環境や経済格差...。本展では、現在、自ら「最後の大プロジェクト」と語り、取り組んでいる最新作、『GENESIS(ジェネシス/起源)』シリーズを含む、約100点のサルガド作品を展示し、アフリカの現状を見つめます。

❖ セバスチャン・サルガド講演会  
2009年10月24日(土) 14時~15時30分  
会場: 渋谷区立加計塚小学校(東京都写真美術館より徒歩5分)  
定員: 約400名  
受付: 当日10時より当館1階受付にて整理番号付き入場券を配布します。その際、展覧会チケットをご提示ください。  
開場: 午後13時00分~(整理番号順入場・自由席)

❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー  
第2・4金曜日 14:00~  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

❖ 展覧会関連イベント  
詳細は決定次第ホームページで発表します。

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

8月29日(土) → 10月18日(日)

## 北島敬三 1975-1991

コザ/東京/ニューヨーク/東欧/ソ連

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

( )は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館/産経新聞社 □ 協賛：EPSON  
□ 後援：サンケイスポーツ/タ刊フジ/フジサンケイビジネスアイ/izal/SANKEI EXPRESS

国内外の美術館やギャラリーで高い評価を得ている北島敬三。無表情なポートレートや人影の消えた都市の風景で知られる一方で、写真家としての活動を始めた1970年代後半から90年代はじめは、今日の撮影スタイルとは全く異なるストリートフォトグラファーとして、写真雑誌を舞台に精力的に活動していました。写真における時間と場所、そして記憶について考察する北島敬三のスナップショットには、その時代、その都市に生きた人間の有様が克明に記録され、時を経た現在もなお、鮮烈なパワーを放ち続けています。



NEW YORK 1981-82年

本展では、北島敬三の原点から今日までの変容を辿りつつ、時空を超える写真の本質に迫ります。

■ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 14:00~

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

■ 連続対談 1階創作室(アトリエ) 14:00~16:00

□9月5日(土) 北島敬三×小原真史(映像作家、IZU PHOTO MUSEUM研究員)

□9月23日(水・祝) 北島敬三×倉石信乃(明治大学大学院准教授)

×林道郎(上智大学教授)×前田恭二(読売新聞記者)

□10月10日(土) 北島敬三×坪内祐三(文芸評論家)

※展覧会チケットの半券をお持ちの方は、どなたでもご参加いただけます。当日10時より1階受付で整理券を配布します。(番号順入場、自由席)

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

8月20日(日) → 10月12日(月・祝)

## 心の眼 稲越功一の写真

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 400(320)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/東京新聞  
□ 協賛：(有)佐多宗二商店/(株)資生堂/(株)トキョウ・グレート・ヴィジュアル/小学館『週刊ポスト』編集部/望月印刷(株)/(株)永昌源  
□ 協力：キャンノンマーケティングジャパン(株)/フォト・ギャラリー・インターナショナル/求龍堂

コマーシャル写真家としてスタートし、肖像写真家としても多彩な活躍を果たした稲越功一。

一方で稲越は自分自身のために写真を撮りつづけ、シリアス・フォトの写真家として注目を集めます。多くの作品集を発表し、国内や海外で展覧会を開催するなか、何気ない日常の風景を鋭い眼差しで切り取ったモノクローム作品で、幅広いファン層を魅了してきました。その写真表現は、後の日本の写真に新たな水脈をもたらしたといえるでしょう。本展は、今年2月25日に逝去した稲越の奇しくも没後初の個展となります。

構成は、生前から本展のために並々ならぬ精力を注ぎ、慎重に準備を進めた稲越の計画通り、彼が表現したかった写真世界を忠実に展示いたします。エディトリアルな写真家や肖像写真家として活動を展開するなかで、自分自身のために撮り始め、シリアス・フォトの写真家として注目を集めるきっかけとなった写真集『Maybe,maybe』(1971)や、『meet again』(1973)、『記憶都市』(1987)、『Out of Season』(1996)などの各シリーズ作品とともに、近年のモノクローム作品による「Recent Work」を紹介。全作品から、稲越功一が伝えたかったメッセージを感じることができるでしょう。1970年代初頭から顕著になるスナップショットの眼差しの系譜から、多彩な写真家であった稲越功一の原点を探るとともに、銀塩写真の豊かな美しさをご堪能ください。

## ■ 関連書籍のお知らせ

『Mind's Eye 心の眼 稲越功一の写真』求龍堂刊 2,940円(税込み)  
展覧会の開催に関連して、写真美術館学芸員の企画・監修による写真集を発行します。

■ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 16:00~

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

■ 講演会 「稲越功一を語る」1階創作室

2009年10月4日(日) 14:00~16:00

宮崎皓一(写真家)×金子隆一(東京都写真美術館専門調査員)

※当日10:00より本展覧会半券をお持ちの方に1階受付にて整理券を配布します。



「meet again」1973年より



「芭蕉景」2005年より

3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

9月29日(火) → 11月23日(月祝)

平成21年度 東京都写真美術館収蔵展 「旅」  
 第3部：異邦へ 日本の写真家たちが見つめた異国世界  
 Part3 To Another Country : Japanese Photographers See the World

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

( )は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館 □ 協賛：凸版印刷株式会社  
 □ 協力：フォト・ギャラリー・インターナショナル/旅行読売出版社



奈良原 一高 静止した時間#95 [静止した時間]より 1964年

「旅」と「写真」は、19世紀の写真の黎明期から常に深い関係がありました。日本においても幕末に写真が渡来して以来、様々な視点で旅と関わり合いのある写真が残されています。本展は、写真術が発明された19世紀から現代に至るまで、「旅」というテーマのなかから生み出されたさまざまな表現を持つ作品を、異なる視点をもつ3つのアプローチにより構成するシリーズ展です。第1部「東方へ」(7月12日に終了)、第2部「異郷へ」(9月23日まで開催)に引き続き、第3部「異邦へ」を開催いたします。

第3部では、日本の写真家たちが旅先で捉えた海外への視線を辿ります。ピクトリアリズムの影響を留めた安本江陽による郷愁漂う風景や、建築写真家渡辺義雄による生き生きとした海外の街のスナップショットをはじめ、日本の写真史を確立させた名写真家たちによる異国での光景を、異邦人として旅した日本人写真家たちの視覚を通して、鮮やかに蘇らせます。著名作家の代表作から、秘蔵の名作まで、東京都写真美術館の約2万6,000点のコレクション



港 千尋 バスク海岸、ピアリッツ [波と耳飾り]より 1986年

から選りすぐられた、珠玉の名品をお楽しみください。各々が独立した企画構成になっていますので、第1部・第2部を見逃された方も充分にお楽しみいただける内容です。

#### 【第3部 出品予定作家】

福原信三、安本江陽、木村伊兵衛、渡辺義雄、名取洋之助、奈良原一高、川田喜久治、植田正治、港千尋ほか

#### ❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー

第2・4金曜日 16:00～

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

#### ❖ 講演会 1階創作室(アトリエ)

2009年11月15日(日) 14:00～16:00 講師：川田 喜久治(写真家)

2009年11月22日(日) 14:00～16:00 講師：港 千尋(写真家・多摩美術大学教授)

※ 当日10時より1階受付で本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの方に整理券を配布します。(番号順入場、自由席)

#### ❖ 公式ガイドブック「旅する写真」

「旅」展 第1部～第3部の出品作品より、代表的な作品を収録した公式ガイドブックです。写真術の変革が見てとれ、国内から海外へと展開する旅写真を1冊にまとめた保存版です。

旅行読売出版社刊  
 東京都写真美術館編  
 定価1,680円(A5判 168ページ)  
 ※当館ミュージアムショップ(03-3280-3279)  
 および全国書店にて好評発売中です



渡辺義雄 フィレンツェ [イタリア]より 1956年

#### 第2部 「異郷へ 写真家たちのセンチメンタル・ジャーニー」

9月23日(水・祝)まで開催中!

第2部では、日本人が捉えた日本の風景を中心に展示します。観光が日常化し、カメラは旅に出る時の必需品となっていきます。しかし次第に、ただ単に旅の記念として撮影するだけでなく、写真を通して内的な心象風景を示す作品が現れてきます。見なれた現実を異郷として眺める視線は、現実の風景を捉える視線から、自己を振り返るための風景への旅を創出してゆきます。

3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

11月28日(国) → 2月7日(日)  
12月28日(月)～1月1日(金)は年末年始休館

## 木村伊兵衛とアンリ・カルティエ＝ブレッソン

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

( )は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館／朝日新聞社

木村伊兵衛(1901～1974)とアンリ・カルティエ＝ブレッソン(1908～2004)は、日本とヨーロッパと活躍した場は異なりますが、ともに近代の写真表現を切り拓いた写真家として重要な存在です。この二人は、ともに「ライカ」というカメラを人間の眼の延長としてとらえ、揺れ動く現実の諸相を切り取り、それまでになかった新しい「写真」のあり方を証明したといえるでしょう。二人の作品には普遍的ともいえる共通性を見て取れますが、その一方で、日本とヨーロッパとそれぞれが生きた現実の違いは、微妙ではありながら決定的な差異として見て取れることも重要な事実です。

本展では、木村伊兵衛とアンリ・カルティエ＝ブレッソンと

いう偉大な二人の写真家の個性を堪能するだけでなく、近代的写真表現が絶対的普遍的でありながら、同時にきわめて個別的相対的なものであったということを見ようとするものです。木村伊兵衛作品は東京都写真美術館のコレクションを中心に、またアンリ・カルティエ＝ブレッソン作品は当館のコレクションを中心に国内各美術館の所蔵作品を含め、全体で約150点を構成する予定です。

## ❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー

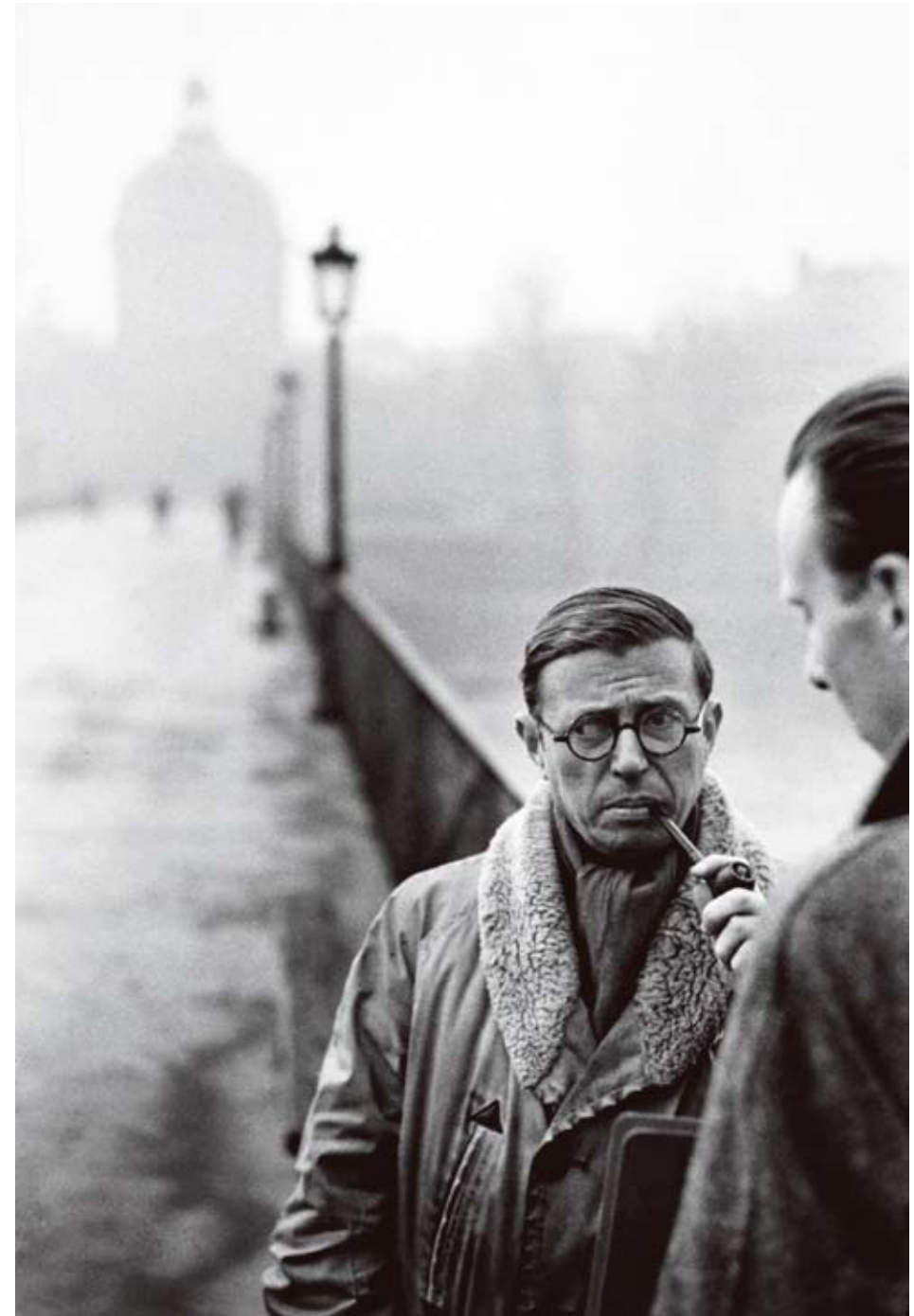
第2・4金曜日 16:00～

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

## ❖ 展覧会関連イベント

詳細は決定次第ホームページで発表します。

木村 伊兵衛 「永井荷風」1954年



アンリ・カルティエ＝ブレッソン 「ジャン＝ポール・サルトル」1946年

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

12月19日(国) → 2月7日(日)  
12月28日(月)～1月1日(金)は年末年始休館日本の新進作家展vol.8  
「出発-6人のアーティストによる旅」

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料□ 主催：東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞 □ 助成：財団法人アサヒビール芸術文化財団  
□ 協賛：凸版印刷 □ 協力：アサヒビール／EPSON／**KANON**／Hahnemühle

東京都写真美術館では、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場となるよう、様々な事業を展開しております。その中核となるのが、日本の新進作家に焦点をあてた「日本の新進作家展」です。

“旅”は、写真が発明された時代から常に写真の重要な主題のひとつでした。まだ、旅行がごく限られた階層の人々にだけに許された時代では、遠い異国の風景や風俗を知るには写真にたよるしかありませんでした。現在では交通機関も発達し、世界各地に実際に訪れることが可能になりましたが、旅に出るときには、必ずカメラを携えていき、

旅先で出会った風景や人々を撮影しています。そして、旅の目的も、未踏の地や山岳の調査、遺跡や名所を観光するだけでなく、自分自身を見つめなおしたり、異国の地で現地の人と実際に生活をしたりと様々に変化しています。今回はこれから活躍の期待される6人の写真家、映像作家の作品を通じ、6つの“旅”を展示。きっと、私たちを新たな知覚の“旅”へと導いてくれるはずですよ。

✕ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3・5金曜日 14:00～  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

|       |  |
|-------|--|
| 尾仲浩二  | 1960年・福岡県出身。1992年・写真の会受賞。<br>2006年・日本写真協会賞新人賞受賞。               |
| 百瀬俊哉  | 1968年・東京都出身。1996年・第7回コニカ写真奨励賞受賞。<br>2002年・土門拳賞受賞。              |
| 石川直樹  | 1977年・東京都出身。2008年・日本写真協会新人賞、<br>講談社出版文化賞、2009年・東川賞新人作家賞受賞。     |
| ざわひらさ | 1977年・石川県出身。2002年・イースト・インターナショナル賞。<br>2006年・デジタル美術家賞。          |
| 百々武   | 1977年・大阪府出身。2002年・フリーランスフォトグラファーに。<br>ビジュアルアーツ専門学校非常勤講師。       |
| 内藤さゆり | 1978年・広島県出身。2001年・フリーランスフォトグラファーに。<br>2005年・コニカミノルタ フォトプレミオ入選。 |



内藤さゆり 「4月25日橋」より 2007年



尾仲浩二 2009.2 福岡県門司

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

11月7日(日) → 11月29日(日)

## 写真新世紀東京展2009

New Cosmos of Photography Tokyo Exhibition 2009

□ 入場無料

□ 主催：キヤノン株式会社 □ 共催：東京都写真美術館

キヤノンの文化支援活動の一環として行っている「写真新世紀」は、新人写真家の発掘・育成・支援を目的に今年で19年目を迎えました。これまでに国内外で活躍する多くの写真家を輩出し、新人写真家の登竜門としても認知度の高い公募展です。今年の公募には、1,340名の応募がありました。本展では、応募作品の中から選ばれた優秀賞・佳作受賞作品とともに、昨年のグランプリ秦雅則氏の新作をご紹介します。フレッシュで力強い作品の数々をお楽しみください。

◎お問い合わせ≫ キヤノン(株) 渉外本部 社会文化支援部  
文化支援推進室 写真新世紀事務局 03-5482-3904



写真新世紀東京展2008 展示風景より

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

10月17日(日) → 11月1日(日)

第20回日本写真作家協会展  
第7回JPA公募展

□ 入場無料

□ 主催：日本写真作家協会 □ 共催：東京都写真美術館

今年で20回目となるJPA展は、日本写真作家協会の会員による約180点の作品が展覧されます。また第7回目となる公募展には全国の応募作品から選ばれた入賞・入選作品158点を展示いたします。

◎お問い合わせ≫ 日本写真作家協会 03-3535-6251

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

12月5日(日) → 12月13日(日)

## 第10回上野彦馬賞展

九州産業大学フォトコンテスト受賞作品展

□ 入場無料

□ 主催：毎日新聞社／九州産業大学

21世紀に羽ばたく若い写真家の発掘と育成を目的とし、わが国の“写真の祖”として尊敬されている「上野彦馬」の名を冠した「上野彦馬賞-九州産業大学フォトコンテスト」。9月16日まで募集される作品から、入賞した作品をご紹介します。展覧会です。

◎お問い合わせ≫ 毎日新聞福岡本部事業部 092-781-3636

# 1F

1階ホール Hall Cinema Information

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

東京都写真美術館で観る映画シリーズ

Film Series  
Vol.48

## ぼくはうみがみたくなりました

ひとりの自閉症の青年と、その周囲の人々が織り成す、心温まるヒューマン・ドラマ

自閉症の青年と、少し人生行き詰まり気味の看護学生が、偶然から海へ向かうたびに出てしまい、そこで様々な人々とめぐり合うハートウォーミングな人間ドラマ。「自閉症」という名前だけが一人歩きし、実際の症状や接し方など、ほとんど知られていない障害に焦点を当て、自閉症の青年を取り巻く人々の人生や心の成長を、時にユーモラスに、時に厳しく、そして温かく描き出す。

コクーン 03-5468-5705



©2009 「ぼくはうみがみたくなりました」製作実行委員会

- 上映スケジュール：8月22日(土)～
- 上映時間：[土日火水] 10:30/13:30/16:20/18:30  
[木金] 11:00/13:50/16:45/19:00
- 料 金：一般 1,500円/学生 1,200円  
中学生以下・シニア(60歳以上) 1,000円

## Film utsuroi 写真家18人からのメッセージ

「フィルムが失くなる」その危機を感じた広告写真家たちの記録映像

交錯し衝突しながらもリレーされてゆく、個々の写真家のおもい。古典的写真技法プラチナプリントを追求する写真家、大型カメラを作る職人、貸し暗室をベースに写真文化を伝える活動家。その姿はシンプルで尊い信念を伝え、勇気を喚起する。これはフィルムのことを通じて考えてみたい、発展する社会から零れ落ちた、この時代のメッセージだ。

Superstore Inc. 03-3230-7611



©Pineforest Producer & Co

- 上映スケジュール：9月19日(土)～10月2日(金)
- 上映時間：13:00/16:00/19:00
- 料 金：ブックレット付き鑑賞券 1,800円(税込)  
鑑賞券(チケット単品) 1,500円(税込)  
※各種割引はありません

## museum shop

1F

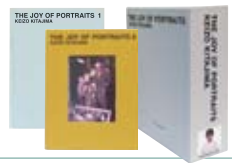


ミュージアムショップ  
『ナディッフ バイテン』

営業時間 10:00-18:00(木・金は20:00、土は18:30)  
◎お問い合わせ：Tel.03-3280-3279

92年から最新作までの《PORTRAITS》と、未発表カットを多数含む《KOZA》から《U.S.S.R》までを収録した、18年振りとなる待望の写真集です。

北島敬三写真集  
"THE JOY OF PORTRAITS"  
プエルノボックス刊 全2巻函入  
21,000円 限定1,500部



www.syabi.com/shop/shop.html

## cafe

1F 2F



カフェ  
『シャンブル クレール  
～明るい部屋～』

営業時間 [1階] 10:00-20:00(日曜日は18:00まで)  
[2階] 10:00-18:00  
◎お問い合わせ：Tel.03-5798-2218

光が差し込む明るい2階カフェ。展示鑑賞の合間に楽しむエスプレッソとじっくりとした触感のチーズケーキは格別です。



エスプレッソ 350円  
チーズケーキ 550円 2Fカフェ

www.syabi.com/cafe/cafe.html

## 維持会員 Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。  
※詳しくはホームページをご覧ください。

http://www.syabi.com/member/member.html

|   |   |  |  |
|---|---|--|--|
| <p>—— 特別支援会員 ——</p> <p>キヤノン株式会社<br/>株式会社資生堂</p> <p>—— 特別維持会員 ——</p> <p>株式会社キタムラ<br/>大日本印刷株式会社<br/>東京電力株式会社<br/>凸版印刷株式会社<br/>株式会社ニコン<br/>富士フイルム株式会社<br/>株式会社リコー</p> <p>維持会員<br/>株式会社HS BBDO<br/>株式会社アイテム<br/>株式会社アサツー ディ・ケイ<br/>旭化成株式会社<br/>朝日新聞社<br/>朝日生命保険相互会社<br/>アサヒビール株式会社<br/>朝日放送株式会社<br/>株式会社アシェット婦人画報社<br/>アップルジャパン株式会社<br/>株式会社アートよみうり<br/>株式会社アマナ<br/>イー・ギャランティ株式会社<br/>株式会社若波書店<br/>内田写真株式会社<br/>エスエヌ製菓株式会社<br/>NECディスプレイソリューションズ株式会社<br/>株式会社NHKアート<br/>株式会社NHKエデュケーション<br/>株式会社NHKエンタープライズ<br/>株式会社NHKプロモーション<br/>株式会社NTTデータ<br/>株式会社NTTコム<br/>NTT都市開発株式会社<br/>株式会社エフエム東京<br/>エプソン販売株式会社<br/>エルメス財団<br/>株式会社大塚商会<br/>オムロン株式会社<br/>オリックス株式会社<br/>オリックスイメージング株式会社<br/>株式会社オンワードホールディングス<br/>科研製菓株式会社<br/>カンオ計算機株式会社<br/>鹿島建設株式会社<br/>株式会社角川書店<br/>カトーレック株式会社<br/>カルピス株式会社<br/>株式会社カンパセーションアンドカムバニー<br/>株式会社キクチ科学研究所<br/>キッコーマン株式会社<br/>株式会社紀伊屋書店</p> | <p>キハラ株式会社<br/>キヤノンマーケティングジャパン株式会社<br/>株式会社キューンコミュニケーションズ<br/>共同印刷株式会社<br/>社団法人共同通信社<br/>協和発酵キリン株式会社<br/>キリンホールディングス株式会社<br/>株式会社弘運社<br/>株式会社講談社<br/>株式会社光文社<br/>株式会社国書刊行会<br/>株式会社コスモインターナショナル<br/>株式会社コーセー<br/>コダック株式会社<br/>株式会社ザ・アール<br/>サッポロホールディングス株式会社<br/>産経新聞社<br/>サントリホールディングス株式会社<br/>株式会社サンロースイ<br/>株式会社ジェイアール東日本企画<br/>ジェイティビー印刷株式会社<br/>株式会社シグマ<br/>株式会社実業之日本社<br/>清水建設株式会社<br/>株式会社写真弘社<br/>シャネル株式会社<br/>株式会社集英社<br/>株式会社主婦と生活社<br/>株式会社主婦の友社<br/>株式会社小学館<br/>松竹株式会社<br/>信越化学工業株式会社<br/>株式会社新潮社<br/>株式会社スタジオアリス<br/>有限会社スタジオエムジー<br/>株式会社スタジオプリ<br/>住友化学株式会社<br/>株式会社生活の友社<br/>セイコーホールディングス株式会社<br/>株式会社青春出版社<br/>積水ハウス株式会社<br/>株式会社セフティ<br/>セントラル警備保障株式会社<br/>日本空輸株式会社<br/>ソニー株式会社<br/>第一三共株式会社<br/>ダイ法規株式会社<br/>ダイキン工業株式会社<br/>株式会社ダイケングループ<br/>大成建設株式会社<br/>有限会社タカイシイギヤラリー<br/>株式会社竹中工務店<br/>株式会社タムロン<br/>株式会社淡交社<br/>株式会社丹青社<br/>株式会社中央公論新社</p> | <p>中外製薬株式会社<br/>株式会社ティービー・オー<br/>株式会社TBSテレビ<br/>株式会社デー・オー・ダブリュー<br/>株式会社テレビ朝日<br/>株式会社テレビ東京<br/>電源開発株式会社<br/>株式会社電通<br/>東亜建設工業株式会社<br/>東京ガス株式会社<br/>東京急行電鉄株式会社<br/>東京工芸大学<br/>東京新聞・中日新聞社<br/>株式会社東京スタデオ<br/>東京造形大学<br/>東京総合写真専門学校<br/>東京テアトル株式会社<br/>東京都競馬株式会社<br/>株式会社東アトム<br/>株式会社東京美術倶楽部<br/>東京メトロ有線テレビジョン株式会社<br/>株式会社東芝<br/>東宝株式会社<br/>株式会社東北新社<br/>株式会社徳間書店<br/>図書印刷株式会社<br/>戸田建設株式会社<br/>トヨタ自動車株式会社<br/>日外アソシエーツ株式会社<br/>日油株式会社<br/>株式会社日経BP<br/>日産自動車株式会社<br/>株式会社日本カメラ社<br/>日本経済新聞社<br/>日本興亜損害保険株式会社<br/>株式会社日本広告社<br/>社団法人日本広告写真家協会<br/>日本写真印刷株式会社<br/>社団法人日本写真家協会<br/>社団法人日本写真協会<br/>日本写真芸術専門学校<br/>日本写真家協会<br/>社団法人日本写真文化協会<br/>日本大学芸術学部<br/>日本たばこ産業株式会社<br/>日本テレビ放送網株式会社<br/>日本ハム株式会社<br/>日本ホームレイト・バックカード株式会社<br/>株式会社ニッポン放送<br/>日本ロレックス株式会社<br/>株式会社ニューアートディフュージョン<br/>野崎印刷紙業株式会社<br/>株式会社博報堂<br/>株式会社バス・コミュニケーションズ<br/>パナソニック株式会社<br/>株式会社林原生物化学研究所</p> | <p>びあ株式会社<br/>北海道写真の町東川町<br/>東日本旅客鉄道株式会社<br/>光写真印刷株式会社<br/>株式会社美術出版社<br/>株式会社日立製作所<br/>株式会社日立物流<br/>株式会社ヒックカメラ<br/>株式会社ビデオプロモーション<br/>ビノキ製菓株式会社<br/>株式会社ファーストリテイリング<br/>株式会社フエルト<br/>富国生命保険相互会社<br/>富士重工業株式会社(スバル)<br/>富士ゼロックス株式会社<br/>株式会社アジテレビジョン<br/>株式会社扶桑社<br/>株式会社アラザクリエイト<br/>株式会社アリヂストン<br/>株式会社アリスホテル<br/>株式会社フレームマン<br/>株式会社文藝春秋<br/>株式会社ベネッセコーポレーション<br/>株式会社ホテルオークラ<br/>HOYA株式会社 PENTAX(パナソニック)が私事業部<br/>株式会社堀内カラー<br/>本田技研工業株式会社<br/>毎日新聞社<br/>株式会社マガジンハウス<br/>マミヤ・デジタル・イメージング株式会社<br/>丸善株式会社<br/>株式会社マダム<br/>三井倉庫株式会社<br/>三井不動産株式会社<br/>株式会社三越<br/>三菱地所株式会社<br/>三菱製紙株式会社<br/>武蔵大学<br/>森ビル株式会社<br/>モルガン・スタンレー証券株式会社<br/>株式会社ヤナセ<br/>ヤマロジスティクス株式会社<br/>ユサコ株式会社<br/>ユニーバジャパン株式会社<br/>横河電機株式会社<br/>株式会社吉野工業所<br/>株式会社コトバカメラ<br/>読売新聞社<br/>ライオン株式会社<br/>ライカカメラジャパン株式会社<br/>リジューメジャパン株式会社 モンブラン<br/>株式会社ワコール</p> |
|---|---|--|--|

## 友の会 Support

東京都写真美術館では、随時新規会員の募集をしています。展覧会のご招待・割引、上映映画の割引をはじめ、たくさんの特典をご用意している他、関連施設での割引もごさいます。開館時間中(10:00～18:00、木・金は20:00まで)に当館1階チケットカウンター横「友の会カウンター」にてご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

|                 |        |
|-----------------|--------|
| 年会費             |        |
| 個人会員            | 2,000円 |
| 家族会員(同伴者1名まで)   | 3,000円 |
| シルバー会員(65歳以上の方) | 1,000円 |

○受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。  
○会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。  
※詳細は当美術館までお問い合わせください。  
Tel.03-3280-0099

| 友の会特典      | 特典内容  |
|------------|---|
| 収蔵展・映像展    | 無料 ○会期中は何度でもご覧いただけます ○家族会員の方は、同伴者1名まで無料                                 |
| 企画展・共催展    | 割引 ○御利用いただけない場合もございます   |
| ミュージアムショップ | 5%引き ○一部商品は除きます   |
| カフェ        | ブレンドコーヒー、ダーズリン紅茶を200円引き ○詳細はお尋ねください                                     |
| その他        | ○写美ニュース「eyes」送付 ○1階ホール(実験劇場)の割引<br>○ロゴス渋谷店1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)など |